

1. 調査報告概要表

作成日 2009年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1591200090
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会
事業所名	グループホームしおかぜ
所在地 (電話番号)	新潟県 村上市 勝木 824 - 2 (電 話) 0254 - 60 - 5333
評価機関名	MMC総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(20年11月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年3月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.2 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	2,000(理美容代) 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 80 円
	または1日当たり 930 円		

(4)利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 徳洲会 山北徳洲会病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夕日美しい「笹川流れ」を山形県側に進んだ、旧山北町の海と山に囲まれた自然豊かで四季を感じられる環境の中にある清潔感のあふれるホームです。ホーム内は家庭的な雰囲気、利用者同士、利用者と職員のコミュニケーションと笑顔が絶えず、「穏やかで安らぎのある暮らし」という理念が実践されています。昨年の外部評価では1年目ということもあり、多くの課題がありましたが、その後の1年で、職員間で話し合いながら改善の取り組みを行ったことで、事業所全体の劇的な成長が図られています。そのため、今年の課題はよりレベルの高いものとなっていますが、昨年同様、職員が力を合わせ、課題を克服されることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の課題に対しては、全職員で話し合い、改善の取り組みが行われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今年の評価に関しては、全職員が自己評価を行った上で、取りまとめて事業所の自己評価が作られています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	事業所からの報告に加え、参加者からの意見や助言が寄せられています。会議の開催後、職員に議事録を回覧し共有するとともに、意見や提案に対しての話し合いと改善の取り組みが行われています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	面会時、遠方の方については月に1回の電話連絡や書面にて暮らしぶりや健康状態の報告が行われています。また、金銭管理については月に1回書面にて明細が送付されています。加えて、利用者の写真の送付も行われています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩の時の挨拶や、一緒に散歩をするなどの日常的な付き合いに加え、近隣保育園、小学校の運動会、協力病院である山北徳洲会病院の祭りへ参加などが行われています。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生活の場として家庭と相違なく、ゆっくりと過ごしてもらいたいという職員の想で作られた「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」という理念に、20年度からは、地域に根ざした支援を行いたいという想いで、「地域」という言葉が加えられました。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや事務室に常に掲示に加え、月1回のミーティングにて「明るく！優しく！笑顔！～みんなで仲良く生活をする」という目標を掲げ、理念の実践に取り組まれています。		
2-2	3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議にて説明が行われていますが、地域への理念の浸透には課題が残ります。	○	地域との交流の機会などを通し、グループホームに対する理解と事業所の取り組みや大切にしていることの理解を深める取り組みを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時の挨拶や、一緒に散歩をするなどの日常的な付き合いに加え、近隣保育園、小学校の運動会、協病院である山北徳洲会病院の祭りへ参加などが行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の課題に対しては、全職員で話し合い、改善の取り組みが行われています。また、今年の評価に関しては、全職員が自己評価を行った上で、取りまとめた事業所の自己評価が作られています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、参加者からの意見や助言が寄せられています。会議の開催後、職員に議事録を回覧し共有するとともに、意見や提案に対しての話し合いと改善の取り組みが行われています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と良好な関係を築き、電話や担当者が事業所へ来所するなどの中で、介護に関する相談だけではなく、パソコンの使い方など、あらゆる相談が行われています。		
6-2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講習会へ参加した職員からの伝達研修や協力病院の協力による勉強会が行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、遠方の方については月に1回の電話連絡や書面にて暮らしぶりや健康状態の報告が行われています。また、金銭管理については月に1回書面にて明細が送付されています。加えて、利用者の写真の送付も行われています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や来訪時の面談や電話連絡による聞き取りに加え、家族会が設置され、幅広く意見や苦情を聞く機会が設けられています。		
8-2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全員参加のスタッフ会議が開催されています。また、「気づきノート」には改善案、「意見ノート」には申し送りや意見を記入するといった工夫もされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限にする取り組みや情報共有によるダメージを防ぐ配慮が行われていますが、家族に対する報告に関して課題が残ります。	○	お便りなどを活用して、異動や離職に関する報告を行うことで、家族の安心感を高めていくことを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルが完備されており、適宜、見直しと追加が行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤の境目を設けることなく、積極的に研修に参加できるよう奨励されています。また、参加者からの伝達研修も行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	概ね2ヶ月に1回の管理者の集いや、年に2回の市内グループホーム職員の交流会に積極的に参加し、ネットワーク作りが行われています。		
11-2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別面談を行い、悩みを聞く機会を設けることや、「気づきノート」や「意見ノート」を活用して相談や意見を聞く工夫がされています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学や1日泊まりを行い、場の雰囲気に馴染めるよう配慮されています。また、訪問を行い、本人との関係づくりにも努められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを密にし、喜怒哀楽を共にするとともに、利用者の昔の話を聞くことや、家庭菜園や調理の際、利用者からアドバイスをもらうなどの工夫をし、人生の先輩として利用者に敬意を持ってケアがされています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況を把握した上で、病院での受診、必要な物の差し入れ、外出や外泊など、家族にお願いできるところは役割分担をし、事業所と共に利用者を支えていく関係が作られています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のコミュニケーションから得た情報を支援経過に記載し、モニタリングや評価の際にケアプランに反映されています。	○	支援経過に記録されているものの、一元的に情報を蓄積する書類がないため、センター方式などの様式を活用し、定期的に情報を追加していくことを期待します。
14-2	34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作り、生活状況の情報を入所時だけではなく、順次更新し、蓄積されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにて利用者、家族の要望を汲み入れ、職員の協議の上、介護計画が作成されています。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度のケアマネージャーによるモニタリングと3ヶ月に1度の担当職員による定期的な見直しが行われています。また、状態の変更による随時の見直しも行われています。加えて、介護記録を記入する際、介護計画が見えるようにし、常に意識するとともに、9日に1回は最近の様子を記載する工夫が行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて、受診同行や買い物など、臨機応変な対応が行われています。また、協力病院との連携体制がしっかりしており、医療面でも安心して利用することができます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を希望される方と協力病院を希望される方と、希望に応じた対応が行われています。入所時には「診療情報提供票」を医師に記入してもらうとともに、受診の際は生活状況の報告を書面にて医師に行うことで、情報交換が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族が希望するターミナルケアが行えるよう、家族との話し合いや、看護師の指導のもとで職員に対する勉強会などが行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の方針と利用目的が事業所に掲示されており、規定に基づいた取り扱いが行われています。また、言葉遣いや羞恥心への配慮も、管理者を中心に職員同士が折に触れて注意しあい、徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本のスケジュールはあるが、起床、食事、入浴、就寝など、極力利用者の状態に応じた対応が行われています。また、コミュニケーションの場を多く設け、職員と共に生活する場となるような工夫もなされています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や気分に応じて準備、後片付けを職員と共に行われています。また、季節によっては家庭菜園で収穫した野菜をメニューに加えるなどの工夫がなされています。		
22-2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックリストを活用し、排泄パターンを把握することで、オムツや紙パンツの使用を軽減し、トイレでの排泄が行えるよう支援されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な時間帯はありますが、利用者の意向を尊重し、対応されています。また、入浴を拒む人に対しては声かけやタイミングの工夫など、職員間で連携し、無理強いをすることなく、入浴を楽しめる支援が行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	簡単な調理、盛付け、配膳、後片付け、洗濯物たたみなど利用者の意向と能力に応じた役割を行ってもらっています。また、塗り絵やりハビリ体操など機能訓練を楽しみながら行う工夫もされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物が行われています。散歩の際は普通通っていた学校に行きその人の歴史をたどる工夫なども行われています。また、季節のいい時期に花見や紅葉狩りなど、行事としての外出の支援も行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの整備の他、協力病院からの研修など周知徹底を行い、職員全員が身体拘束をしないケアを当然として業務にあたっています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関共に鍵をかけないケアが当然として行われています。玄関に関しては、万が一目が届かった場合を想定して、家族の了解を得た上で、チャイムがつけられています。不快に感じることはありません。		
26-2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理に対する心得の周知徹底、インシデントレポートの作成と情報の共有と再発防止策の検討、協力病院の安全管理対策委員会への参加など意識の高い取り組みが行われています。		
26-3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの作成と周知徹底に加え、協力病院にてAEDの取り扱いと救命救急の公衆が行われ、参加できなかった職員に対しても伝達研修が行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、定期的な避難訓練が行われています。また、運営推進会議を通じて町内会長、役場、保育園等との協力関係が確立していますが、地域との合同訓練は予定が中止となってしまっています。	○	地域との合同訓練の実施と協力関係の構築を期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた必要量を設定し、食事量と水分量のチェックが行われています。また、配色業者のメニューを利用することで、栄養バランスへの配慮も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白と木目を基調とした室内は清潔感があり、ホールや廊下などに季節を感じさせる利用者の作品が適度に飾られていることで、季節感や温かみを感じる空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物を持込んでもらうよう働きかけ、居心地良く個性のある居室になるよう配慮されています。		